

コロナ時代における

“社会的処方”の

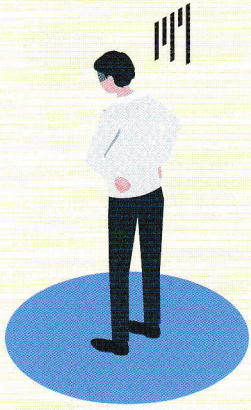
可能性と地域への応用

自然災害の頻発、新型コロナウイルスの蔓延、医療サービスの崩壊など、私たちの生活状況を「変える出来事が多発し、絆の強さが求められる現代社会ではむしろ「分断」が加速化しております。行動制限による経済の低迷、人との接触の回避などがもたらす「社会的孤立」は、孤立死、犯罪、消費トラブルなどの顕在化された問題に留まらず、生きがいや尊厳といった人間の内面にも深刻な影響をもたらします。

一方のイギリスでは、社会的孤立が及ぼす経済的損失の対策として、「社会的処方」というリンクワーカーによる地域医療を構築することで、年間の医療コストを570万ポンドから450万ポンドにまで減少(約16億円の削減)させました。本学が主催する公開講座では、「社会的処方」を国内で実践する西智弘先生をお招きし、川崎市で活躍されている「暮らしの保健室」での多様な取り組みをご紹介いただき、「病気になるっても安心して暮らせるまち」に向けた社会的処方の可能性について学び、新潟の将来に求められる社会の仕組みについて考えます。

令和3年度
新潟県立大学
公開講座

ONLINE



社会的孤立

社会的処方

孤立という病を地域のつながり、人と人とのつながりで治す方法



基調講演 西 智弘

川崎市立井田病院化学療法センター医長、(一社)プラスケア代表理事

2005年北海道大学医学部卒業。室蘭日鋼記念病院で家庭医療を中心に初期研修後2007年から川崎市立井田病院で総合内科/緩和ケアを研修、その後2009年から栃木県立がんセンターにて腫瘍内科を研修、2012年から現職。現在は抗がん剤治療を中心に、緩和ケアチームや在宅診療にも関わる。また一方で、一般社団法人プラスケアを2017年に立ち上げ代表理事に就任。「暮らしの保健室」や「社会的処方研究所」にて、薬ではなく「地域での人のつながり」を処方する「社会的処方」に取り組む。

著書:『社会的処方:孤立という病を地域のつながりで治す方法』

プレゼンテーション 鈴木 翼

つばさ産業医オフィス代表、(公財)新潟県保健衛生センター嘱託医師

2008年新潟大学医学部卒業、2014年新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健学分野(旧・公衆衛生学分野)博士課程修了。日本郵政グループ社内産業医を経て、2021年に産業医業務を専門とする、つばさ産業医オフィスを開業。県内外約30社の労働衛生管理に携わる。業務の傍ら、長岡崇徳大学看護学部非常勤講師として未来の公衆衛生人材の育成にあたる。社会医学系指導医兼専門医、日本疫学会認定疫学専門家、日本産業保健法学会認定メンタルヘルス法務主任者。

プレゼンテーション・コーディネーター 関谷 浩史

新潟県立大学国際地域学部准教授

新潟県立大学准教授。博士(工学)。一級建築士。明治大学工学部建築学科、同大学院工学研究科建築学専攻後期博士課程、慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程、鹿島建設A/E総事業本部、慶應義塾大学環境情報学部助手、同専任講師、凸版印刷株式会社経営企画本部、県立新潟女子短期大学准教授等を経て、現職。

日時/2021

12/3 金

18:15~20:30

Zoomオンライン開催

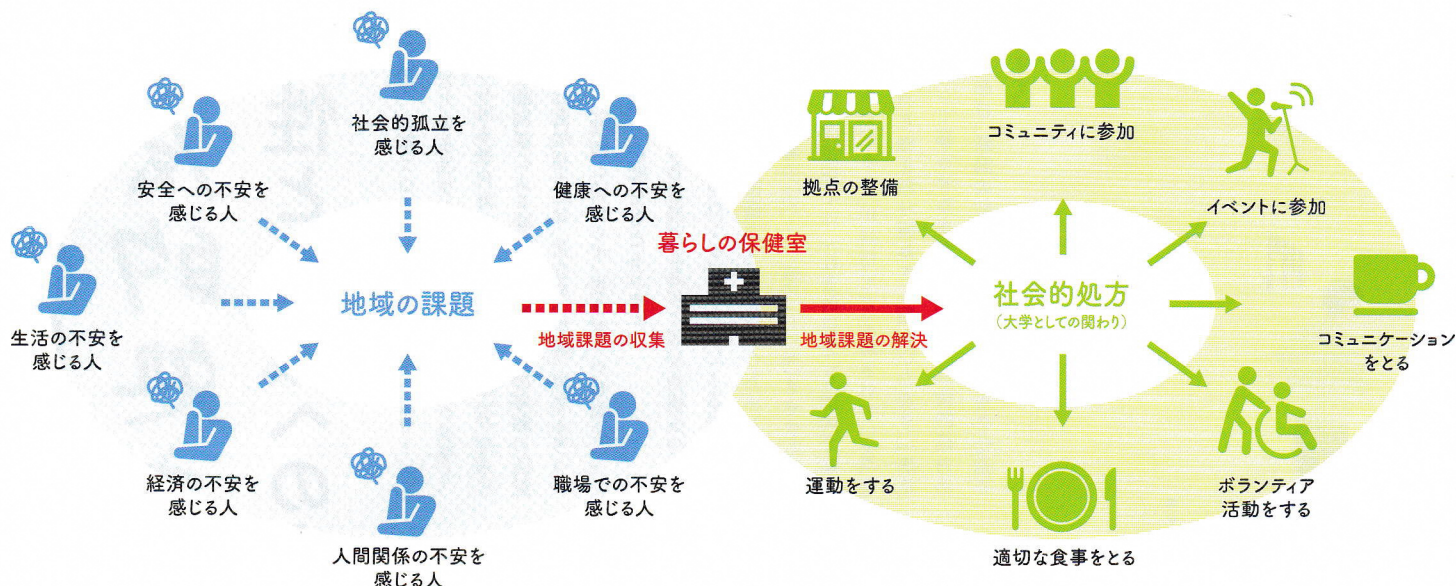
【参加申込】
詳しくは裏面をご覧ください。

参加無料

主催/新潟県立大学
後援/新潟県、新潟市教育委員会、新潟日报社
NHK新潟放送局

新潟県立大学
University of NIIGATA PREFECTURE

社会的処方を示す概念図



基調講演

社会的処方の意義と実践 川崎市の「暮らしの保健室」から見てきたもの 西智弘

川崎市立井田病院化学療法センター医長
(一社)プラスケア代表理事

イギリスや国内で展開されている社会的処方に触れ、川崎市で実践している「暮らしの保健室」や「社会的処方研究所」での取り組みを通じ、「枠を超えてゆるくつながる」仕組みづくりがもたらす「病気になっても安心して暮らせるまち」に向けた処方箋を探る。

プレゼンテーション

コロナ禍における 新潟の現状・ストレスとの関わり方 鈴木翼

つばさ産業医オフィス代表
(公財)新潟県保健衛生センター嘱託医師

コロナ禍において人々の生活や人との関わりが大きく変化した中で、職域の現場や地域の高齢者にフォーカスし、どんな変化があったのか、それによるストレスの影響と向き合い方、さらに新潟特有の事情について触れる。

パネルディスカッション

新潟で実践すべき社会的処方の可能性 コーディネーター 関谷浩史

新潟県立大学国際地域学部准教授

新潟市は今年8月27日、JR新潟駅から古町地区までのエリアが、容積率などの規制を緩和できる国の制度「都市再生緊急整備地域」に指定された。これによって、道路の上空利用の規制緩和や、事業面積が1ヘクタールを超える大規模再開発への税制支援など、民間投資の誘導につながる特例措置の適用が可能になり、再開発で拡大する新たな都市空間をどのように活用していくかが喫緊の課題になっている。箱をつくってそこを埋めていく従来の手法に代わり、市民生活の質を向上させる人間関係やコミュニティの形成につながる都市機能の在り方が求められている。パネルディスカッションでは、武蔵小杉(川崎市)で実践された都市開発を事例に、人々のQOLの向上につながる都市空間の可能性や、地域が有する課題を安心材料に変換させる社会的処方の在り方について意見交換を行う。

西海岸公園を対象とした 健康を向上させる公園利用の可能性 関谷浩史

新潟県立大学国際地域学部准教授

Withコロナ時代において健康寿命を向上させる「ウォーキング」と、自己免疫力を高める自然環境を有する「公園」との適切な利用の在り方について考察する。

コロナ時代における“社会的処方”の可能性と地域への応用

プログラム	18:15	開会・開会挨拶
	18:20 ~ 19:10	西氏基調講演
	19:10 ~ 19:30	鈴木氏プレゼンテーション
	19:30 ~ 19:50	関谷准教授プレゼンテーション
	19:50 ~ 20:00	休憩
	20:00 ~ 20:20	パネルディスカッション
	20:20 ~ 20:30	質疑応答、閉会挨拶
	20:30	閉会

参加申込 **2021年**
申込期限 **11月29日(月)**

下記ウェブページにアクセスし、参加フォームに必要事項をご記入してお申し込みください。下の二次元コードからアクセス可能です。

<https://forms.gle/cf6u9im8hRYxep679>

申込フォーム



ご登録いただいたメールアドレスに、後日ZoomウェビナーのURLを招待メールにてお送りします。(Zoomの利用方法は公式サイトをご覧ください。)

※ご登録いただいた個人情報は、公開講座受付処理と今後の催事で案内に利用します。当日は記録用として、会の様子を録画撮影させていただきます。



新潟県立大学 地域連携センター
〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬471

TEL.025-368-8225 FAX.025-364-3610
email: unpreco@unii.ac.jp